

入学時の価値観と卒業後の進路との関連性についての一考察

須永 一道・齋藤 智・柳澤 利之

An Analysis of the Correlation Between Students' Value Judgments at University Entrance, and Vocational Choices After Graduation

Kazumichi Sunaga, Satoshi Saito, Toshiyuki Yanagisawa

1. はじめに

キャリア教育に関わる多くの教員は、初年次教育において学生が目指すさまざまな将来像について問いかけているが、それらの問いかけに対する正解はなく、学生自身もどのように回答すれば良いのかを苦慮している姿が見受けられる。

我々は、長年に亘り学生への就職指導を行ってきたが、果たして、入学時において学生が就業することに対して抱いている人生観・価値観というものが、卒業時での進路決定にどのような影響を与えるのか、即ち如何なる関連性があるのか、について調べてみることは、今後のキャリア教育を行っていく上で重要なことと考えた。

本稿は、本学入学時での学生の人生観・価値観を大きく3つに類別するための調査を実施し、その其々類別したタイプが卒業時で如何なる進路を選択したかについて詳細に比較し、分析した結果を纏めたものである。

これにより本学学生における入学時の人生観・価値観と卒業時進路との関連性について、一つの知見が得られた。このことについてここで報告する。

2. 調査方法

「大学生のためのキャリア開発入門 第2判」（編著：渡辺峻 中央経済社）において渡辺は、「そもそも何のために働くのか、何を求めて働くのか」という根源的な問いに対する唯一の正しい解答がある訳ではなく、「何のために生きるのか」という問いにも関連し、人それぞれに異なる人生観・価値観の問題であると述べ、事例として3名の人生観・価値観を類型化している。3つの類型化では全ての人を分類できるものではなく、人生観・価値観は入り混じっていることも想定しているが、人それぞれの根底にある人生観・価値観が明確でなければ、将来どんな職場でどんな仕事につき、いかに働くか、などについても具体的に何ひとつ決めることができないと述べている。¹⁾

本稿では、渡辺が分類している3つの人生観・価値観についての調査を入学時点で実施し、卒業時の

進路決定との関連性を検証するものである。

2. 1 調査対象

平成23年4月に新潟青陵大学短期大学部人間総合学科人間総合コースおよび人間総合学科介護福祉コース、ならびに新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科および福祉心理学科に入学した学生の内、(表1)に示した講義を受講している学生を対象に「三人の人生観・価値観」調査を実施した。

表1

対象学部・学科	受講講義名	対象学生数	調査日出席者	実施日
短期大学部人間総合学科 人間総合コース	キャリアデザインⅠ(1)	167名	162名	平成23年 4月26日
短期大学部人間総合学科 介護福祉コース	キャリアデザインⅠ(2)	32名	31名	平成23年 4月25日
看護福祉心理学部 看護学科(編入学含)	人の暮らしを見るⅠ	90名	89名	平成23年 4月21日
看護福祉心理学部 福祉心理学科(編入学含)	人の暮らしを見るⅠ	135名	134名	平成23年 4月21日

本稿の対象とするのは、調査を行った全ての学部・学科ではなく短期大学部人間総合学科人間総合コースの学生162名とする。短期大学部人間総合学科介護福祉コースにおいては、学科コースの特性上全ての学生が介護福祉士の資格取得を目指して学んでおり、ほぼ全ての学生の就職先が介護を必要としている施設・サービス事業となるため、進路の考察を目的とする本稿には適さないため対象外とした。看護福祉心理学部看護学科においては看護師のみではなく助産師・保健師・養護教諭、福祉心理学科においては福祉の現場や医療施設でのソーシャルワーカーや介護職、保育士さらには民間企業への就職など進路が多岐にわたる選択となるが、今回調査対象とした学生は4年生大学の2年生であり、就職決定時期ではないため、両学科とも分析の対象外としている。

なお、本学短期大学部には幼児教育学科が設置されているが、ほぼ全ての学生が幼稚園・保育園での勤務を希望し、就職を決定していることから調査の対象外とした。

2. 2 調査内容

調査票は記名式とし、その内容については資料1に示すとおりである。調査項目は、異なる人生観・価値観を持つ「Aさん、Bさん、Cさん」3名の特徴を確認し、自身の人生観・価値観に近い人物を選択させ、その理由を記述する形式である。3名の人生観・価値観は、(表2)の設定となっている。

入学時点の調査で確認した3名の人生観・価値観の選択状況と平成25年2月末日における学生の就職内定先企業の業界と雇用区分の関係性を検証することで分析を進めた。

表2 三人の人生観・価値観の特徴

	価値観の特徴
Aさん	お金を目的として働く
Bさん	人間関係等の職場環境を重視し、職場を選択
Cさん	自己成長を目的として職場を選択

2. 3 調査実施

調査票の配布と回収は、全て該当の講義中に行った。調査票は講義内において趣旨説明を行った後に学生に配布し、記入後に回収を行っている。回収は講義に出席した162名であり、在籍学生数の97.0%であった。なお、欠席した5名は調査対象外とし、3人の中から一人を絞り込まず「A. B」「B. C」等の複数回答を行った4名については、追跡調査対象外としており、最終的には158名、在籍学生数の94.61%を追跡調査対象とした。

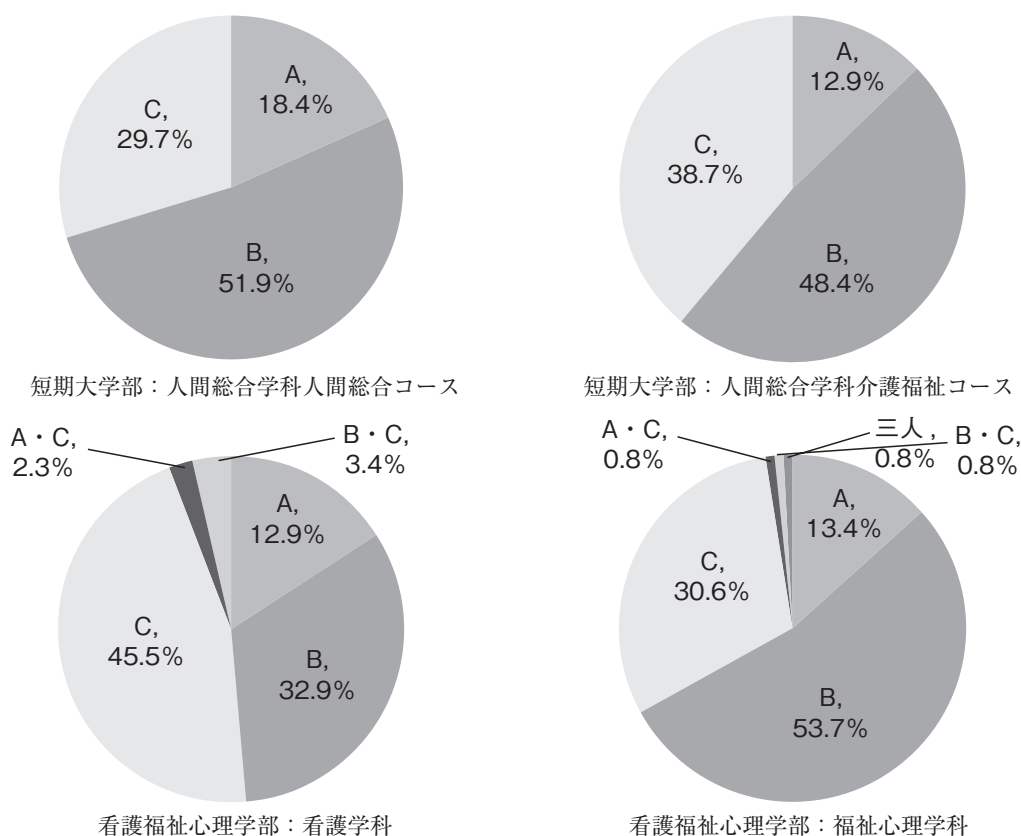
内定先企業データとの検証を行う際には進路選択状況を勘案し、就職を希望する学生を確認した上で分析を進めた。

3. 結果および考察

3. 1 結果の概要

入学時に調査した「三人の人生観・価値観」調査結果を学部学科別に検証し、その概要を確認するため、学部別回答状況を（図1）に示している。

図1 「学部学科別 三人の人生観・価値観調査結果」



短期大学部人間総合学科人間総合コースにおいては、働く目的がお金とする「Aさん」に価値観が近いと回答した学生が18.4%、人間関係・雰囲気重視して職場を選びたいとしている「Bさん」に価値観が近いと回答した学生が51.9%、自己成長のために働くとする「Cさん」に近いと回答した学生が29.7%となっており、「Bさん」を選択する学生が最多となっている。

人間総合学科介護福祉コースにおいては「Aさん」12.9%、「Bさん」48.4%、「Cさん」38.7%と

なっており、人間総合コースと同様に「Bさん」を支持する学生が最多である。

大学看護福祉心理学部を見ると、看護学科が「Aさん」15.9%、「Bさん」32.9%、「Cさん」45.5%であり「Cさん」を選択する学生が最多である。

福祉心理学部では、「Aさん」13.4%、「Bさん」53.7%、「Cさん」30.6%となっており、「Bさん」を選択する学生が最多となっている。

看護学科を除く三学科においては、「Bさん」を選択した学生が50%前後となっており、最多の支持となるのに対し、看護学科のみ「Cさん」を選択した学生が最多という結果になっている。

全ての学科で共通しているのは、お金を目的としている「Aさん」を選択した学生が10%台で最少という点である。「Aさん」を選択した学生の特徴として、家庭環境を理由にあげた学生が多くいることから、進路選択に向けての影響を確認したい。

また、これらの傾向については、23年度のみ分析であることから、今後も継続した調査を実施することでその傾向の検証を進めたい。

今回の考察で対象となる人間総合学科人間総合コースの学生についてまとめたデータを（表3）に示す。

表3 対象学生の人生観・価値観の選択状況

	人数	構成比	備考
Aさん	29	18.4%	
Bさん	82	51.9%	
Cさん	47	29.7%	
計	158	94.6%	追跡調査対象学生
A. B	1		「A. B」を選択した学生
B. C	3		「B. C」を選択した学生
欠席	5		当日の講義を欠席した学生
合計	167		調査日現在籍学生数

3. 2 進路との関連性についての考察

進路との関連性の考察を進めるにあたり、条件として入学時点の調査により追跡調査対象となった158名の内、進学や家事手伝いを除く就職希望者143名を対象としている。

この143名の学生の内、企業から採用内定を受け、学生自身がその内定を大学に報告している学生を本稿では内定者としている。ただし、内定を届け出ている学生でも、雇用区分の未記入などデータ記載に不備のある学生がいたことから、その学生を除いた学生100名を内定学生とした。

人間総合学科人間総合コースの特徴として、女子学生の比率が高く今回の分析で対象としている内定学生も97%の学生が女子学生である。そのため、女子学生の採用に積極的な販売等の業界への就職者数が多くなる傾向にはあるが、内定企業分類を業界に細分類することで分析を進める。

今回の考察にあたっては、まず学生が提出している内定企業データから、企業分類を行ったが、内定先企業分類が44分類となった。特に販売に関連する企業分類は24あり、過半数を超えている。

これを再度13業界に分類したものが（表4）であり、この分類による内定状況をもとに考察を進める。

表4 内定学生企業の業界分類

業 界	企 業 分 類			
販売	コンビニエンスストア	アパレル	ドラッグストア	販売 (IT)
	販売 (OA)	販売 (医療機器)	販売 (医療用具)	販売 (携帯電話)
	販売 (自動車)	販売 (自動車部品)	販売 (消防機器)	販売 (食品)
	販売 (時計)	販売 (農業用機械)	販売 (宝石)	販売 (ホームセンター)
金融	政府系金融機関	地方銀行	信用金庫	信用組合
製造	製造 (食品)	製造 (金具)	製造 (自動車部品)	製造 (精密加工)
	製造 (電気機器)	製造 (電子部品)	製造 (エンジン)	製造 (鋼材)
観光	ホテル・旅館	旅行業		
サービス	飲食業	クリーニング	情報	福祉サービス
アミューズメント	アミューズメント			
医療・福祉	医療法人	社会福祉法人		
建設・不動産	建設	不動産		
冠婚葬祭	冠婚葬祭			
運送	運送			
卸	食品卸			
スポーツクラブ	スポーツクラブ			
コールセンター	コールセンター			

入学時の選択と内定業界を一覧にまとめたものが(表5)である。

「A」「B」「C」それぞれにある比率は、各選択を行った学生の内定率を示しており、「計」にある比率は内定学生全体に占める業界内定率となっている。

入学時に「Aさん」を選択した学生の内定業界は、販売29.4%、金融23.5%、製造23.5%とこの3業界で全体の76.4%となっており、他は観光、サービス、運送業、スポーツクラブそれぞれ5.9%となっている。

「Bさん」を選択した学生の内定業界は、販売51.8%となっており過半数の学生が販売業界を選んでいる。それに続く形で金融8.9%、製造8.9%、観光7.1%であり、全体の構成比で3%以上を占めているアミューズメントおよび医療・福祉業界への就職はこの「Bさん」を選択した学生のみとなっている。

「Cさん」を選択した学生の内定業界は、販売が48.1%と半数に近い数字となっており、金融14.8%、観光14.8%、製造11.1%が続いている。

どの選択を行った学生の場合も、販売業界からの内定率が一番高く、本学学生に人気のある金融が続いている。

採用内定者全体を見ると、上位4業界で81%の内定を得ていることが分かる。特に販売業界が47%と高い比率となっているが、これは本年度の就職活動の傾向が明確になっているものである。

本年度は地方銀行の採用枠が抑制されており、その影響から金融業界への内定者数が減少している。本学の場合、地方銀行の採用枠に占める内定率は例年大きな変化はなく、金融業界への採用者数はその採用枠に影響されている状況にある。例年であれば金融業界へ就職をしている学生も含め販売業界への就職を決めているため内定者比率が全体の47%と金融13.0%と比較してもかなり高くなったと推察される。地方銀行の採用枠が例年並みに確保されれば、その差は縮まるものと思われる。

また、比較的賃金が高いとされるアミューズメント業界への内定者が、「Bさん」を選択した学生のみであり、お金を優先する価値観を持つ「Aさん」を選択した学生からの内定者がゼロとなっている。併せて販売業界の中には、売上を給料に反映する歩合給制度を取り入れている企業もある中、「Aさ

ん」を選択した学生の販売業界への内定率が29.4%であり、他の選択をした学生よりも低くなっている。

今回の考察を進める上で、内定率と正規雇用率についても検証を行った。

どの選択を行った学生も70%前後の内定率となっており、大きな差は見られない。「Bさん」を選択した学生は、職場の雰囲気や人間関係を重視する価値観のため、就職活動における期間の長期化を想定していたが、他の選択学生との差は見られなかった。

同様に正規雇用率についても、どの選択を行った学生も90%前後となっており、こちらも大きな差は見られない。

「Cさん」を選択した学生の価値観を考えると、自身の成長と仕事のやりがいを優先するものであるため、正規雇用率は低くなる可能性も想定していたが、実際は他の選択をした学生との差異は見られない結果となった。

学生としては、早期に内定を得たい気持ちを持ちながらも、安定志向の高まりもあり正規雇用を意識している姿を伺える結果となっている。なお、正規雇用率を算出するにあたっては、入社時点の正規雇用のみをカウントしており、入社後一定期間経過後に正規雇用への転換を条件とする等の場合は、非正規雇用として取り扱っている。

表5 入学時の人生観・価値観の選択と業界別内定状況

	A		B		C		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
販売	5	29.4%	29	51.8%	13	48.1%	47	47.0%
金融	4	23.5%	5	8.9%	4	14.8%	13	13.0%
製造	4	23.5%	5	8.9%	3	11.1%	12	12.0%
観光	1	5.9%	4	7.1%	4	14.8%	9	9.0%
サービス	1	5.9%	2	3.6%	1	3.7%	4	4.0%
アミューズメント	0	0.0%	3	5.4%	0	0.0%	3	3.0%
医療・福祉	0	0.0%	3	5.4%	0	0.0%	3	3.0%
建設・不動産	0	0.0%	1	1.8%	2	7.4%	3	3.0%
冠婚葬祭	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%	2	2.0%
運送	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%
卸	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	1	1.0%
スポーツクラブ	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%
コールセンター	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	1	1.0%
合計	17	100.0%	56	100.0%	27	100.0%	100	100.0%

4. おわりに

本稿においては、入学時点における人生観・価値観が卒業の進路に与える影響があるのかについて、分析・考察を行ってきた。本稿における結論としては、学生が入学時点において抱いている人生観・価値観と実際の進路においては、関連は見られないということである。

進路選択に影響を与える要因としては、社会・経済情勢による求人動向があると言える。

本学が今年度影響を受けている地方銀行の採用枠縮小の傾向は全国的な金融業の動向としても確認できる。株式会社リクルートワークス研究所の調査²⁾によると、金融業における求人総数は前年比で2012年3月卒：-8.6%、2013年3月卒：-8.5%となっている。一方流通関連業界のように、海外への積極

展開を行う一部企業を中心に求人総数を増加させているケースや、リーマンショックにより採用を抑制していた反動で採用数を伸ばしている企業もある。さらに、企業全体としては、求人数を伸ばしている企業であっても、その増加分は即戦力となる中途採用に振り向けられており、新卒採用に影響が表れているケースも出ている。特に、本学のように女子学生が多く在籍する短期大学への求人は、雇用における調整弁とされることが多い傾向は従来から変わらない。これらの要因による求人総数の増減が学生の選択に大きな影響を与え、学生自身では解決できない壁が存在することとなる。

そこで、このような状況にある学生の進路選択を支援するため、キャリア教育の重要性が増すものと考えられる。学生を成長させる可能性を有する2～4年間に亘るキャリア教育により、自身のこれまでの経験ではわからない社会のさまざまな動向や社会との関係性への気付きを与えることが必要であろう。

しかし、現在のキャリア教育では効果的な手段・手法が確立されていない状況であり、今後更に研究を進め、調査結果の蓄積を図る必要があると考える。

参考文献

1. 渡辺峻編著「大学生のためのキャリア開発入門」平成22年9月、中央経済社。p.1～2。
2. 株式会社リクルートワークス研究所「第29回ワークス大卒求人倍率調査（2013年卒）」平成24年4月（参考 業種別求人総数民間企業就職希望者数の推移）

資料：調査票

三人の人生観・価値観

Aさん：「出来るだけ多くのお金を稼ぐために働くのです」

「愛とか、正義とか、自己実現とか、人生はきれいごとでは
ありません」

「お金が無ければ何も出来ないのです。メシも喰えなければ家も
建たないのです」

「お金がなくて苦労した親の生き様をみて、つくづくそのことを
学びました」

Bさん：「ある程度の生活が出来るのなら、給料が安くても、良い雰囲気の
職場で働きたいのです」

「良い人間関係の職場であればどんな仕事でもします」

「人生において最終的に心のきずながいちばん大事なことです」

「騙されたり騙したり、人間関係がズタズタになった孤独な親の生き様を
みて、つくづくそのことを学びました」

Cさん：「何よりも自分のやりたいことをするために働くのです」

「やりがいや生きがいを感じる仕事をして自分が成長しなければ、
そんな職場はすぐに変わります（転職します）」

「一度しかない自分の人生を、自分なりに納得した生き方、働き方を
したいのです」

「家庭を顧みることなく会社組織にひたすら滅私奉公し、自分のやりたい
ことも出来ず会社人間として自己犠牲の人生を終えた親の生き様をみて、
つくづくそのことを学びました」

学歴番号	氏名
【考えてみよう】 *三人(Aさん、Bさん、Cさん)の人生観・職業観について、あなたはどう思いますか	
<p>あなたの人生観・職業観は三人のうち誰のものに近いですか？ 近いと思う人に○印をつけて下さい。</p> <p style="text-align: center;">A B C</p> <p>理由を記入して下さい</p>	

(渡辺峻編著「大学生のためのキャリア開発入門」平成22年9月、中央経済社より)